

## “アセンブリⅡ”チームワークと地域連携強化を目指した 多職種連携教育プログラム

市野 直浩<sup>\*1,§,3</sup> 前野 芳正<sup>\*1,3</sup> 南 一 幸<sup>\*2,3</sup> 村田 幸則<sup>\*1,3</sup>  
堀場 文彰<sup>\*1,3</sup> 大田 真由美<sup>\*3</sup> 柳田 隆正<sup>\*1,3</sup> 三浦 恵二<sup>\*1</sup>  
鈴木 康司<sup>\*1</sup> 齋藤 邦明<sup>\*1</sup> 秋山 秀彦<sup>\*1</sup> 松井 俊和<sup>\*2,3</sup>

**[要 旨]** 本学では建学以来、多職種連携教育プログラムとして「アセンブリ」を実施している。平成27年度より医学部医学科と医療科学部6学科の全7学科の2年生を対象として、チームワークと地域連携強化を意識したプロジェクト活動を実践するアセンブリⅡを開始した。平成28年度は合計611名の学生を対象とし、各学科の学生で構成される混成チーム96チーム(5~8名/1チーム)を編成して、学外にて地域連携やボランティア活動を行うプロジェクト、またキャンパス内あるいは大学病院内で多様な活動を支援するプロジェクトなど計61のプロジェクト活動を実施した。活動終了後に実施した学生に対するアンケート調査では、66.7%が活動は有意義だったと回答し、コミュニケーション能力の向上に繋がったようである。アセンブリⅡは、将来医療の専門職として社会に貢献するために必要な専門職連携の基盤を養成する上で、有意義な活動であると思われた。

**[キーワード]** アセンブリ、多職種連携教育、地域連携、社会人基礎力、アクティブ・ラーニング

### 緒 言

藤田保健衛生大学(以下、本学)は、医学部医学科と医療科学部6学科(臨床検査学科、看護学科、放射線学科、リハビリテーション学科(理学療法専攻および作業療法専攻)、臨床工学科、医療経営情報学科)からなっている。本学では建学以来、チーム医療の基盤作りを目指した多職種連携の教育プログラムとして「アセンブリ」を実施している。その目的は、学部及び学校間の壁を乗り越え、学生と教員が共通の目的に向かって一緒に活動を通して、心身を錬磨し、責任感と奉仕

の精神にあふれた人間形成を目指す。これにより、将来医療の専門職として社会に貢献するのに必要な専門職連携の基盤を涵養することである。

近年、大学に求められる社会的ニーズが大きく変化している<sup>1~3)</sup>。地域社会との連携に始まり、他大学、企業、さらには海外においても連携を広げて、社会の様々な部分で教育・研究ができる環境・機会を整えなければならなくなってきた。また、教育手法も変革を求められている。従来型の教員が教え、それに対する学生の到達度を高めることを主な目的とする受動的な学習から、学生が主体的・協働的に自ら学ぶ課題解決型の能動的な

<sup>\*1</sup> 藤田保健衛生大学医療科学部 <sup>§</sup> ichino@fujita-hu.ac.jp

<sup>\*2</sup> 同 大学医学部、<sup>\*3</sup> 同 大学アセンブリ委員会

学習(アクティブ・ラーニング)が求められている<sup>4)</sup>。そのような社会的背景の変化に対応すべく、本学のアセンブリ教育もここ数年で大きく様変わりした。

現在のアセンブリ教育の具体的な活動内容は、以下の通りである。まず1年次には、剣道班、サッカー班などの運動系、連帯太鼓班、管弦楽班、書道班などの文化系、そしてヒト疾患モデル研究班などの研究系、合計42班の活動班のうちいずれかに属し、毎週月曜日4限目に班活動を行うとともに、救命救急講習、手洗い講習、災害医療講習(Psychological First Aid : PFA)、搬送法の全4種類の全学活動を行う。この1年次の活動をアセンブリ I という。そして平成27年度より2年次のアセンブリ活動には、チームワークと地域連携の強化を意識したプロジェクト活動を実践するアセンブリ II を導入した。これは、2年生約600名全員を5~8名から成る混成チームに編成し、チーム単位でプロジェクト活動を行うものである。学生たちは希望するプロジェクトに参加し、自ら活動内容の企画立案を行い主体性と協働性を持って活動するアクティブ・ラーニングを体現する。そして3年次(一部学科は4年次)では、平成25年度よりチーム基盤型学習(Team-Based Learning : TBL)を行うアセンブリ III を実施している。アセンブリ III で行う TBL の特徴は、多職種連携課題に地域思考性を加えていること、そして近隣の大学である名城大学薬学部ならびに日本福祉大学社会福祉学部の学生も参加して実施していることである。このように本学のアセンブリ教育は、1年次から3年次まで体系的な活動によって、将来医療の専門職として社会に貢献するために必要な専門職連携の基盤を涵養する。

今回は、アセンブリ I から III のうち、平成27年度より新たに開始したアセンブリ II について、2年目となる平成28年度の取り組みを中心に報告する。

## I. 対象と方法

アセンブリ II は、医学部医学科と医療科学部6学科の全7学科の2年生を対象として実施してい

る。平成28年度は、合計611名の学生を1チームあたり5~8名として96チームに編成した(チームの人数はプロジェクト活動の内容により例外もある)。なお、全てのチームは特定の学科の学生のみで構成されないよう混成チームとした。

平成28年度に実施したプロジェクト(表1)は、アセンブリ I の班活動を支援するプロジェクト(P1)が13プロジェクト、キャンパス内や大学病院内での多様な活動を支援するプロジェクト(P2)が23プロジェクト、そして学外で地域連携やボランティア活動を行うプロジェクト(P3)が25プロジェクトであった。プロジェクト活動の内訳としては、96チーム中16チーム100名(16.4%)がP1を、40チーム261名(42.7%)がP2を、40チーム250名(40.9%)がP3をそれぞれ実施した。

なお、各プロジェクトには、指導および評価を行うための担当教員を1名以上配置した。また、活動に必要な物品の購入あるいは交通費等として使用できる活動費を、学生1人当たり2,000円、教員1人当たり5,000円とし、各チームの人数に応じて支給した。

## II. 結 果

### A. チーム編成

平成28年2月初めに平成28年度に実施する全てのプロジェクトの概要を専用のアセンブリ・ポータルサイト <http://assembly.fujita-hu.ac.jp/> に掲載した。そして、学生には各プロジェクトの内容を確認の上、2月末までに5つの希望するプロジェクトをWeb上で登録させた。その後、アセンブリ委員会にて各プロジェクトにおけるチーム編成を決定した。平成28年度は、学生個々が希望した5つのプロジェクトに準じたチーム編成を行うことが可能であった。

### B. 活動時間

アセンブリ II の活動は、全体活動とプロジェクト活動からなる。全体活動とは、最初に行うオリエンテーションやプロジェクト終了後に行う活動報告会などであり、時間数としては合計10時間である。一方、プロジェクト活動とは各チームが行う実際の活動を指し、活動日時や場所に関して

表1 平成28年度アセンブリIIプロジェクト一覧

	プロジェクト	チーム数	参加学生数	総参加学生数(%)
アセンブリI 班活動を支援 (P1)	1 アセンブリ弓道班初心者指導プロジェクト	1	10	100(16.4)
	2 バドミントン班 初心者の技術指導補助	1	8	
	3 硬式テニス初心者指導	1	6	
	4 初心者へのラグビー指導	2	11	
	5 サッカー班初心者指導プロジェクト	1	7	
	6 男子ソフトボール班の技術指導および班活動運営補助	1	7	
	7 卓球初心者指導	1	7	
	8 太極拳の指導補助	1	5	
	9 アセンブリ院内コンサート開催支援	1	7	
	10 絵画作品を展示しよう	1	8	
	11 囲碁入門指導-方法の検討と実践-	1	5	
	12 実験動物取り扱い技術初心者指導	1	6	
	13 緩和ケア病棟でマジックを披露しよう	3	13	
キャンパス内・大学病院内での 活動を支援・実施 (P2)	1 学園祭支援プロジェクト"学園祭盛り上げ隊"	2	17	261(42.7)
	2 豊明祭りへ参加しよう!"夏バージョン"	1	8	
	3 豊明祭りへ参加しよう!"秋バージョン"	1	8	
	4 院内サマースクール	6	35	
	5 院内デイケア	1	5	
	6 患者さまの声を聞いてみよう!	2	15	
	7 安全管理研修会へ参加して安全意識を高めよう	1	7	
	8 院内感染対策チームの活動に参加しよう	1	5	
	9 認知症サポーターになって活躍しよう!	2	16	
	10 クリーンキーパー	4	30	
	11 藤田学園キャンパススライフ発掘プロジェクト	2	10	
	12 いこいの広場コンサート運営支援1	2	10	
	13 いこいの広場コンサート運営支援2	1	8	
	14 お話スキルを磨いてみませんか	2	14	
	15 豊明団地地域包括ケアプロジェクト	2	10	
	16 緩和ケア	1	5	
	17 院内学級の子供たちが喜ぶ企画をしよう!	1	6	
	18 魅せる写真	2	12	
	19 本のプレゼンバトル、ビブリオバトルをやってみよう!	2	10	
	20 実験分子医学研究(Nature論文講読)	1	7	
	21 海外医療ドラマで英語を学ぶ	1	8	
	22 留学生おもてなし	1	8	
	23 スポーツ障害予防のためにできることを考える	1	7	
学外での 地域連携活動・ボランティア活動を 支援・実施 (P3)	1 スペシャルオリンピックス バドミントン部門	1	8	250(40.9)
	2 スペシャルオリンピックス テニス部門	2	12	
	3 スペシャルオリンピックス ボーリング競技支援	2	12	
	4 スペシャルオリンピックス 日本・愛知 ボッチャのボランティア参加	1	6	
	5 スペシャルオリンピックス 日本・愛知"サッカー"	2	11	
	6 薬物依存症者の当事者活動支援	1	6	
	7 介護施設でのレクリエーション	1	7	
	8 ICLS(Immediate Cardiac Life Support)を体験しよう	1	6	
	9 小学生に救急救命処置を学んでもらおう	3	20	
	10 小学生のための健康教室(体のしくみ)	5	30	
	11 名古屋科学館での企画実演	1	9	
	12 学内外の学会・研究会お助け隊	1	8	
	13 外国籍の児童・生徒への学習支援ボランティア	2	16	
	14 名古屋市視力障害者フロアバレーのボランティア	1	7	
	15 【とよあけ健康21計画すすめよう!プロジェクト】食生活対策グループ	1	6	
	16 【とよあけ健康21計画すすめよう!プロジェクト】運動対策グループ	2	12	
	17 【とよあけ健康21計画すすめよう!プロジェクト】検(健)診対策グループ	1	6	
	18 【とよあけ健康21計画すすめよう!プロジェクト】緑化フェアでのウォーキング	2	10	
	19 【とよあけ健康21計画すすめよう!プロジェクト】たばこ対策グループ	1	6	
	20 学生の学生による受験生のための相談・支援活動	1	6	
	21 ソフトボールによる地域との交流試合	3	15	
	22 豊明市国際交流	1	6	
	23 豊明いきいきカフェ	2	12	
	24 障害者の生活および社会活動支援	1	5	
	25 若い世代を消防団へ!	1	8	
合 計	61プロジェクト	96	611	611(100)

は活動内容や状況に応じてチーム毎に決めることとし、各チームの主体性に任せた。但し、活動時間に関しては、全体活動とプロジェクト活動を合わせた総活動時間が30時間以上となるよう求めた。なお、毎週月曜日4限目は、カリキュラム上アセンブリ活動とした(医学部医学科は前期のみ)。

### C. プロジェクト活動の準備

実施するプロジェクトおよびそのチーム編成が決定した後、全体活動における準備段階の活動の中で、まずチーム内でメンバーのリーダー、会計などの役割分担を決定した。その後、活動計画を立案し、同時に予算計画も策定した。それらはプロジェクト申請書および予算申請書としてアセンブリ委員会への提出が義務付けられており、アセンブリ委員会は、その内容に関して審査を行った。各チームは、審査後にそれぞれのプロジェクト活動を開始した。

### D. プロジェクト活動の一例：

#### 「豊明いきいきカフェ」

プロジェクト P3-23「豊明いきいきカフェ」は、本学と地域包括協定を締結している豊明市との協働プロジェクトであり、2チーム12名の学生が実施した。本プロジェクトは、豊明市三崎町にある商店街の空き店舗を地域コミュニケーションの場として活用するという地域活性化事業に寄与するプロジェクトである。学生たちは、空き店舗の清掃やペンキ塗りなど店舗の改装から始め、「egao家」(えがおや)と称した地域コミュニティの場を豊明市職員や商店街の方々と1から作り上げた。egao家では各種イベントが行われ、そのサポートも積極的に行った。これらの活動は地域から高い評価を受け、新聞報道にも取り上げられ注目された(図1)。活動の終盤には、学生自ら「ハロウィン・パーティー」を企画立案した。これまでの活動の中で築き上げてきた豊明市職員や地域住民の方々との信頼関係をベースにハロウィン・パーティーの計画は進められていった。学生たちは、ポスター作りなどの準備から当日の開催・実施までの全てにおいて責任を持って行い、開催日には多くの地域住民の方に参加して頂き、まさに笑顔にあふれたegao家の活動となった(図2)。

### E. 評価方法

活動終了後、学生には以下の書類の提出を義務付けた。①活動状況(活動日時、時間、場所、内容)を記載した活動記録簿、②自己評価を行うための振り返りシート、③ピア評価を行うための相互評価シート、④活動内容をまとめるための結果報告書、⑤活動費の使用状況を記した出納帳の5種類である。①～③は学生各自、④と⑤に関してはチーム毎に提出させた。プロジェクトの担当教員は、学生の活動状況とこれら提出書類の内容も考慮し学生個々の評価を行った。一方でアセンブリ委員会では全体活動に関して、その出席状況等を基に学生個々の評価を行い、最終的な評価は、担当教員によるプロジェクト活動の評価とアセンブリ委員会による全体活動の評価を合わせた総合評価によって行った。

### F. アンケート調査結果

プロジェクト活動がほぼ終了した時点で担当教員会議と各チームの学生リーダーによるチームリーダー会議をそれぞれ別に行った。その際に行ったアンケート調査の結果を表2に示す。学生に「活動は問題なく行えたか?」と聞いたところ、「問題なく行えた」と「少し問題はあったが解決できた」がそれぞれ53.4%、27.3%であり、80.7%が大きな問題もなくチーム活動を行えた。担当教員に対して「チーム活動はどうですか?」と尋ねたところ、「大変順調に活動している」と「まあまあ活動している」が合わせて81.0%であった。「問題となったのはどれか?」という質問に対しては、教員・学生ともに「学生/教員との連絡」が最も高率であった。学生への「活動は有意義だと思うか?」の質問に対しては、66.7%が「有意義だった」と回答しており、18.9%が「あまり有意義を感じなかった」と回答した。「活動は有意義だった」と回答したものに対して「どんな点で有意義だったと思うか?」と尋ねたところ、「コミュニケーション能力向上」が60.0%と最も高率であった。

## III. 考 察

本学では建学以来、将来医療の専門職として社



図 1

新聞にアセンブリ II 「豊明いきいきカフェ」の取り組みが掲載された(中日新聞 2016年5月25日朝刊)。左下の写真は egao 家のオープンに向けて空き店舗の清掃やペンキ塗りを行う学生たちの様子である。



図 2

左は学生たちが作成したハロウィン・パーティー用のチラシである。このチラシを商店街等で配布した。右の写真は当日の様子である。右下の写真はイベントとして行ったパブリカを用いた「ジャック・オー・ランタン作り」の様子である。学生たちが子供たちに作り方を教えた。

表2 アンケート調査結果

Q.チーム活動はどうか？	大変調に活動している	まあまあ活動している	問題はあるが活動している	問題が多く活動できていない	活動の機会が未だない
担当教員に対するアンケート調査結果 (回答率:68.9%)	13 (31.0%) テマ	21 (50.0%) チーム活動	8 (19.0%) 学生との連絡	0 (0%) 活動費用	0 (0%) その他
Q.問題となったのはどれか？	2 (4.5%) 大変うまく機能している	14 (33.3%) 何とかが機能している	16 (38.1%) 目標達成にはまだ一歩足りない	4 (9.5%) 目標に向かっていない	5 (11.9%) 評価するのは困難
Q.アセンブリIIの現時点での目標への到達度は？ (社会人基礎力獲得について)	6 (14.3%) 問題なく行えた	24 (57.1%) 少し問題があったが解決できた	11 (26.2%) 問題は解決できなかった	1 (2.3%) 未だ活動中で答えられない	0 (0%)
Q.活動は問題なく行えたか？	47 (53.4%) 学生間の連絡	24 (27.3%) 教員との連絡	7 (8.0%) 活動時間が合わない	10 (11.36%) 予算	その他
Q.問題となったのはどれか？	14 (15.7%) 有意義だった	42 (47.2%) あまり有意義を感じなかった	18 (20.2%) どちらでもない	9 (10.1%)	6 (6.7%)
Q.活動は有意義だと思うか？	60 (66.7%) 社会人基礎力向上	17 (18.9%) チーム医療力向上	13 (14.4%) コミュニケーション力向上	問題解決能力向上	
Q.どんな点で有意義だと思うか？ (有意義だと答えた方への質問)	10 (16.7%)	11 (18.3%)	36 (60.0%)	3 (5.0%)	
学生(チームリーダー)に対するアンケート調査結果 (回答率:93.8%)					

会に貢献するために必要な専門職連携の基盤を涵養することを目的として「アセンブリ」を実施している。アセンブリは、1年次から3年次(一部学科は4年次)までの体系的な多職種連携の教育プログラムであり、2年次にはアセンブリIIを実施する。アセンブリIIとは、平成27年度より導入したチームワークと地域連携の強化を意識したプロジェクト活動を実践するプログラムである。本学の医学部医学科と医療科学部6学科の学生で混成チームを形成し、チーム単位でプロジェクトを学生が主体的・協働的に実施する。

2006年に経済産業省は「社会人基礎力」を提唱した<sup>6)7)</sup>。社会人基礎力とは、「前に踏み出す力(アクション)」、「考え抜く力(シンキング)」、「チームで働く力(チームワーク)」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とされ、「基礎学力」や「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「力」である。現在は社会人基礎力を意識的に育成していくことが重要となってきた。アセンブリIIの目的のひとつに社会人基礎力を養うことを大きく掲げているが、アセンブリII活動を行うためには、まさに社会人基礎力が必要となる。

P3のプロジェクトである「豊明いきいきカフェ」は、チームワークと地域連携強化を目指したアセンブリIIの代表的なプロジェクトである。学生たちは豊明市職員や商店街の方々とは協働して地域のコミュニティスペース egao 家を立ち上げた。初めは各種イベントなどを手伝う「サポーター」であったが、そこから一歩踏み出し「ハロウィン・パーティー」を自ら企画立案し、その準備から実施までを責任を持って行った。つまり「サポーター」ではなく「プレーヤー」として活躍した訳である。そこではまさに、アクティブ・ラーニングを体現し、社会人基礎力の3つの能力を総動員して開催・実施にまで至ったことであろう。以下が参加した学生からの感想である。『egao 家の立ち上げに、地域の方々と一緒に1から関わることができたのはとても貴重な経験でした。また、このアセンブリIIの活動の特徴で

ある学部学科混成のチームであるため、普段交流が少ないメンバーとコミュニケーションを取ること、将来のチーム医療に必要な力を培うことができました。さらに、egao 家においては、様々な世代の皆様との会話ができ、患者さんや患者さんのご家族への接し方も学べたと思います。(中略)この半年間の活動により、自分でやることを主体的に探して行動に移すことができるようになったと感じ、将来の私たちに良い影響を与えてくれる経験だったと思います。(「藤田学園広報誌 私立大学われを創りき」<sup>8)</sup>より引用)』)

アセンブリ II のプロジェクト活動がほぼ終了した時点で、担当教員会議およびチームリーダー会議をそれぞれ開催し、アンケート調査を実施した。その結果、教員および学生ともに約 80% が大きな問題なく活動できたと回答した。しかし、アセンブリ II の活動を有意義だったと回答した学生は 66.7% にとどまった。「あまり有意義を感じなかった」あるいは「どちらでもない」と回答したチームに関しては、実施したプロジェクトの活動内容等を検討し「どこに問題があったのか?」、「改善すべき点は何か?」を抽出し改善していかななくてはならない。アセンブリ II は平成 28 年度で 2 年目であるが、まだまだ問題点が多い。そのひとつがアンケート結果から明らかとなった担当教員と学生間の連絡に関する問題である。基本的に連絡はアセンブリ・ポータルサイト内に準備した Moodle (e-ラーニングプラットフォーム)で行うことを推奨しているが、実際には充分機能しているとは言い難い。今後もより一層の利用促進を促していく必要がある。また、プロジェクトによっては「学生間において活動時間が合わない」という問題もある。各学科 2 年次では実習が始まり、その終了時間がまちまちになるためであるが、この問題に関しては、活動時間における工夫や多様性、土・日曜日などの有効利用などに期待したいところである。

まだまだ解決しなければならない問題はあるが、平成 27 年度より開始したチームワークと地域連携強化を目指した多職種連携教育プログラムであ

るアセンブリ II は、将来医療の専門職として社会に貢献するために必要な専門職連携の基盤を養成する上で、有意義な活動であると考えられる。さらに、アクティブ・ラーニングや社会人基礎力養成という観点からもユニークな活動であると思われる。今後も、課題・問題点を抽出しそれらを解決しつつ、より充実した多職種連携の教育プログラムになるよう発展させていくことが肝要であると考えている。

#### IV. 結 語

本学の建学以来実施している多職種連携教育プログラム「アセンブリ」に、平成 27 度から 2 年生を対象とした新たなプログラム「アセンブリ II」を導入した。アセンブリ II は、チームワークと地域連携の強化を意識したプロジェクト活動を行う活動であり、将来医療の専門職として社会に貢献するために必要な専門職連携の基盤を養成する上で、有意義な活動であると思われた。

#### 文 献

- 1) これからの大学教育の在り方について(第三次提言). 教育再生実行会議, 2013.
- 2) 私立大学アクションプラン. 日本私立大学団体連合会, 2013.
- 3) 国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン. 一般社団法人国立大学協会, 2015.
- 4) 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申). 中央教育審議会, 2012.
- 5) 大学教育部会の審議のまとめについて(素案). 文部科学省, 2012.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1318247.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1318247.htm)
- 6) 社会人基礎力, 経済産業省, 2016.  
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>
- 7) 「社会人基礎力」育成のススメ～社会人基礎力育成プログラムの普及を目指して～. 経済産業省, 2007.  
[http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku\\_chosa.html](http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_chosa.html)
- 8) 藤田学園広報誌 私立大学われを創りき. 2016; 39(2): 2.